



さいたま市立与野南小学校 【児童数】計356名
電話 831-0157



ネット被害から子どもたちを守ろう

校長 土屋 智樹

6月の個人面談では、お忙しい中、御来校いただきありがとうございました。保護者の皆様と担任とで、お子様の学校や家庭での様子についてお互いに情報交換することができ、とても有意義な時間となりました。保護者の皆様から頂いた御意見やお子様に関する情報を今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

さて、6月19日、市立学校長を対象にした人権教育研修会に参加しました。研修会では、情報文化総合研究所の佐藤佳弘氏による「インターネットと人権侵害」についての講演がありました。講演会では、ネット上での人権侵害の実態についてのお話があり、ネット上の中傷被害が有名人だけでなく、一般の人々にも及んでいる事例を聞いて、大変深刻な問題であると実感しました。さらに、誹謗中傷投稿者のおよそ半数が、誹謗中傷を投稿した動機として、「正当な批判・論評だと思った」というある調査結果の紹介があり、行き過ぎた正義感から意図しないで加害者になっている実態も知ることができました。私は、これは極端な考えをもつ人々の話ではなく、私自身も含め誰しもが何かのきっかけがあればこのようなことを引き起こしてしまうかもしれず、あるいは巻き込まれる恐れもあると思っています。また、これは大人だけの問題だけでなく、子どもたちの問題としてもとらえるべきであると考えます。実際、小学生のスマートフォン保有率の上昇に伴い、SNS上のトラブルも増えていると言います。2022年度の全国の重大事態となったネットいじめの認知件数は12年前と比べ、およそ36倍も増えている結果もあります。

では、子どもたちのネット被害を未然に防ぐために、何ができるのでしょうか。佐藤氏は、学校教育でできることとして①啓発教育の重要性②子どもたち主体のルール作り③情報リテラシー教育の充実④ネット安全教室の活用⑤ソーシャルメディア利用ガイドラインの作成⑥多様な視点での学習の6点が重要だと述べていました。①について、ネット社会は、現実以上に危険であることを子どもたちにしっかりと教える必要があります。犯罪者は、なりすまして子どもたちに近づいてきます。近づいてくる相手に「返信してはならない」「相談にのってはいけない」などと具体的に教えることも必要でしょう。地道に繰り返し子どもたちに伝えていくことが大切です。②について、現代社会は、ルールや約束事を作らないで使う人の良識に任せてはもういけない時代だと思います。そして、ルールを作る上で大切なことは、決して大人からの押し付けられたルールではなく、子どもたちと話し合いながら、自分たちに考えさせてルールを作ることです。また、「ルールを決めたからもう安心」ではなく、定期的に見直すことも重要です。⑥について、中傷投稿を生み出す原因が「相手が悪い」「自分が絶対に正しい」という一方的な見方での決めつけが問題となっていることから、私たちは知識・教養を広げ、様々な立場での視点で物事を考えることが大切だと考えます。そのような考え方ができるようになれば、自分とは異なる意見や価値観を拒絶せず、「こんな物の見方もあるんだな」などと受け入れることもできるようになると思います。学校は、多様な視点で学習活動が行われていますが、教育活動を通して、子どもたちに多様な考え方を身に付けさせていきたいと考えています。

夏休み、子どもたちは、スマートフォンなどを使って、インターネットに触れる機会が増えることと思います。①②⑥については、御家庭でもできる取組です。ネット被害から子どもたちを守るために、今一度、お子様と一緒に話し合いながら確認していただき、有意義な使い方に留意していただけたらと存じます。



いじめ撲滅の
各学級のスローガンです